

タグを組み、より良い
高山金属をつくっていく。

[タグ]

Tag

TAKAYAMA MAGAZINE

2025 July Vol.01

ヤッターッ!!

Title

社内報はじまりました。
タイトルは長谷さんの
提案に決定!

DAIKI HASE



本社
長谷 大貴

いよいよ高山金属の社内報が始まりました。タイトルはTag(タグ)です。創刊準備号でこの社内報のタイトルを募集しました。長谷大貴さんの案から1部分をもらって、タイトルはTagに決められました。選定理由は「本社・谷山港・七ツ島3つの事業所が、タグを組み、より一層会社が発展して行くように」という思いが込められているところが評価されました。シンプルで覚えやすく、親しまれやすい素敵なタイトルに決められました。



Message 代表メッセージ

社内の声が
未来をつくる。

私たちにとって初めての試みとなる社内報を発行することとなりました。これは、会社の歴史や現状、現場の声や社員の意見を全員で共有し、チームワークやコミュニケーションをより良くしていくためのチャレンジです。

私は「継続は力なり」を信条としています。これまでトップダウンで進める場面も多くありましたが、これからは社員皆さんの声を広く集めながら、誰もが活躍できる組織を目指していきたいと考えています。若い人の挑戦も、経験者の知恵も、すべてが会社の財産です。社内報も継続することで、良い成果を生み出すツールになると信じています。

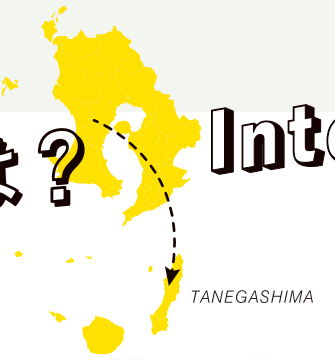
私たちの強みも課題も正しく見つめ、前向きに変化していける組織を目指していきます。



HIROYUKI
TAKAYAMA

代表取締役
高山 博行

高山金属の「種子島出張」とは？ Interview



TANEGASHIMA



YUTA KAMIMURA

谷山港事業所 上村 雄太

谷山港事業所 立石 貴弘

高山金属には、鹿児島県本土だけでなく、種子島で約1ヶ月滞在して行う仕事もあるんです。でも、その内容を詳しく知らない人も多いのでは？今回は、出張の常連・立石さんと上村さんに、種子島でのお仕事や現地での暮らしぶりを聞いてみました。



種子島での仕事について教えてください。

Q1

立石 基本的には本土と同じで、スクラップの回収と船への積み込みを行います。回収先は島内の解体業者やスクラップ業者です。以前、JAXAの大型発射台を回収したこともあります。ロケット関連の案件は毎年ではありませんが、比較的多い方だと思います。

上村 私も立石さんも、グラブ付きのロングトラックを運転しているので、2台体制で種子島に向かいます。現地での生活用に軽自動車も1台持ち込みます。

種子島ならではの面白さがありますか？

Q2

立石 すべての作業を自分で完結させる必要があります。仕事の幅が広がります。スケジュール管理や効率的な回収ルートを自分で考えるため、いつも以上に頭を使いますね。特徴的なのは、帰る日が確定していないことです。船の都合に左右されるため、だいたい1〜2か月という大まかな日程になります。

上村 そうですね。家族からは「いつ帰ってくるの？」と不思議がられることもあります。船の都合で、予定より早まったり遅れたりすることがあるので、臨機応変な対応が求

められます。予定が早まると、かなりタイトなスケジュールになることもあります。

Q3

種子島での仕事で心がけていることは？

上村 島に限ったことではありませんが、「高山金属」の名前を背負って仕事をしている以上、安全第一を徹底しています。また、島のお客様との信頼関係を大切に、丁寧な対応を心がけています。

立石 ヤードの整理整頓や船への積み込み後の清掃など、現場を美しく保つことも意識しています。普段と同じことではありますが、島では私たち二人だけなので、より一層気を引き締めて取り組んでいます。

Q4

今後も種子島出張に行きたいと思えますか？

立石 はい。島内の同業者の方々と交流があり、飛び込みで依頼されることもあります。そういった場面で頼っていたら、やりがいを感じますね。

上村 私も行きたいです。家族と離れるのは寂しいですが、普段と違う環境で働けることは刺激になります。今後も必要とされる限り、積極的にいきたいと思っています。

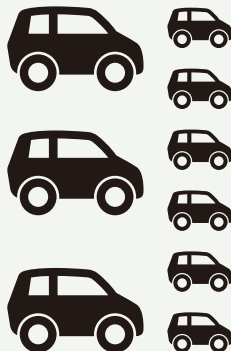
数字で分析! 高山金属Q

1年間に取り扱っている
鉄スクラップの総量

2万5千トン

軽自動車およそ

36,000台分

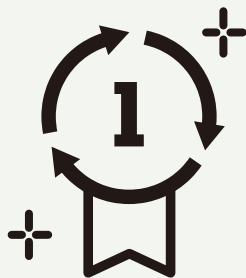


高山金属は金属をリサイクルする会社。その中でもメインで取り扱っているのはやはり鉄!1年間の鉄スクラップの取扱量は、なんと25,000トン!これは軽自動車に換算すると約36,000台分の重量になります。これだけの量の鉄スクラップを、また世の中で役立つように、再生資源として循環させているのが、私たちの誇りです。

小型家電リサイクル法認定事業者

鹿児島で オンリー1

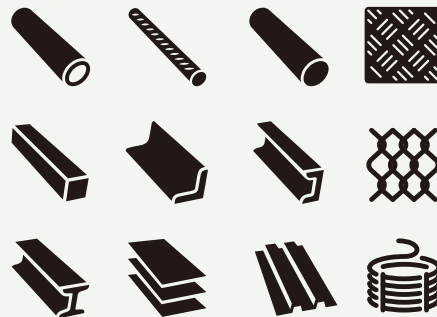
高山金属は2023年10月31日付で環境省・経済産業省から小型家電リサイクル法認定事業者(第66号)として認定を受けました。これは鹿児島県では初の認定取得であり、九州南部でのE-scrap(いわゆる都市鉱山と呼ばれるレアメタルを含むスクラップ)のリサイクルに大きな役割を果たすことが期待されています。



Infographics

高山金属で取り扱う品目数

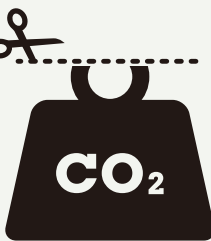
100種類以上



鉄・アルミ・銅・ステンレス...私たちの身の回りには様々な金属があります。そのなかには単一の金属だけでなく、合金と呼ばれるものもあります。例えばステンレスは、鉄にクロムとニッケルという金属を混ぜて作った合金です。真鍮・砲金など他にも様々な種類の合金があります。私たち高山金属は、これらの様々な金属を有効に資源循環させるため、なんと100種類以上もの検取項目を取り扱っています。

鉄1トン製造あたりの
CO₂排出削減量

1.28ト



コークス(石炭)を燃やして鉄鉱石から鉄を作る従来の製鉄法に比べ、鉄スクラップを電気で溶かして鉄を作る製鉄法は、鉄1トンを製造する際に排出するCO₂を1.28トンも削減できます。カーボンニュートラル社会の実現に向けて、鉄スクラップから鉄を作ることの価値が高まっています。

Character



応募よろしくにゃ。

大募集

今度はキャラクターの名前募集!
金一封をゲットしよう!

社内報の公式キャラクターの名前を大募集!親しみやすく、みんなに愛される名前を考えてください。採用された方には金一封を進呈!あなたのセンスが名物キャラクターの名前になるチャンスです。ふるってご応募ください!
応募フォームにはQRコードからアクセスできます。

応募フォーム



採用者には金一封も!
●一人複数案の応募もOK
●応募締切/8月29日(金)

Club



ソフトボール部
活動報告

ソフトボール部は毎週火曜日の就業後に、南中学校のグラウンドで練習に励んでいます。鹿児島市ソフトボール協会に登録しており、現在はA〜D級のC級で試合に出場しています。まずはC級で優勝し、B級クラスに昇格することを目指しています。監督は伊地知さん、キャプテンは大山さんが務めています。野球やソフトボール初心者でもチャレンジできるので、まずは練習見学からいかがでしょうか。



Report



社員旅行で大阪万博へ行ってきました

高山金属は2年に1度、社員旅行を行っています。今年は「せっかくだから万博に行こう」という社長の意向により行先は大阪万博になりました。予約システムの難しさもあって目当てのパビリオンを体験できない人が多く、また残念ながら昼前から雨が降りましたが、会場のスケールの大きさを感じ、様々な国の文化や人々のエネルギーに触れて、大いに刺激を受け、人生経験のひとつとして記憶に残る時間になりました。



入社しました。よろしくお願ひします。



谷山港事業所
菊地 明子
趣味: 季節の花を見ること

AKIKO KIKUCHI

3人の子どもを育てながら仕事と家庭の両立に奮闘中です。初めての職種で覚えることも多いですが、毎日充実した日々を過ごしています。気軽に声をかけていただくと喜びます!



谷山港事業所
山崎 慎也
趣味: 音楽鑑賞

SHINYA YAMAZAKI

入社して気づけば2ヶ月が経っていました。まだまだ知識・経験不足を感じていますが、お客様に「ありがとう」と仰っていただける時が嬉しいので、今後もお客様・先輩方にも感謝していただけるように頑張ります!

NewFace



谷山港事業所
札元 奈那
趣味: ドライブ

NANA FUDAMOTO

入社して間もないですが、上司の方々のご指導、心身への気遣いのおかげで、働きやすさを実感しています!これから色々なことを任せいただけるよう努力していきたいと思っています。

制作担当より

社内報は社員の皆さん全員でより良い会社の未来を作っていく、とても大切なコミュニケーションツールです。読んで楽しく、チームのつながりが深まるような社内報を目指して制作します。よろしくお願ひします!

制作
・株式会社読売鹿児島広告社
・アダプト株式会社
・クラウド株式会社

有限会社 高山金属



まずはこの社内報を続けることに注力していきたいと思ひます。続ける中で様々な改善を重ね、また社員の皆様のアイデアや協力も取り入れながら、次号を楽しみにしてもらえよう社内報にしていきたいと思ひますので、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

- ① 事業所間の壁を超えて、会社の最新情報や成功事例をシェアすることで、業務の連携を円滑にすること
- ② 社内の取り組みや社員の活躍を紹介することで、会社全体の方向性を共有し組織の一体感を高めること
- ③ 社員の成果を認め、表彰やインタビューを掲載することで、「自分の頑張りが評価されている」と感じてもらうこと
- ④ 企業理念や会社の価値観を伝える機会を作ること、一致団結して共通の目標に向かいやすくなること
- ⑤ 社員の家族やお客様にも見てもらい、高山金属の仕事内容や社内の雰囲気や魅力を伝える、会社の魅力をPRすること

後編
記集



取締役営業部長
高山 慎司
趣味: キャンプ

まずはこの創刊号を発行するにあたり、ご協力いただいた皆様に感謝を申し上げます。この社内報を発行する目的は、以下の5つです。